

令和5年度 学校自己評価結果等報告書

学校名 ( 豊岡市立竹野小学校 ) 校長名 ( 宇川博久 印 )

1 学校教育目標

こころ豊かに たくましく生きる竹野っ子の育成  
～「させられる自分」から「する自分」へ～

2 学校教育推進の視点

- ① あたまの力 「5つの徹底・継続実践事項」の徹底 授業改善 個に応じた学習指導の充実 英語教育・ICTの活用 読書活動の推進
- ② からだの力 体力作り 体育行事の充実 安全・防災教育の推進 食育・健康教育の充実
- ③ こころの力 非認知能力の育成 道徳・人権教育、体験活動の充実 いじめ・不登校への組織的対応
- ④ 地域とともにある学校 ふるさと教育の推進 地域資源の効果的な活用 学校情報の積極的な発信

3 総合的な自己評価

「学校運営」「教育課程」「研修」「課題教育」「学校環境」の全ての評価分野で、概ねねらいを達成している。本年度は、「させられる自分」から「する自分」へ、をテーマに主体的に活動する児童の育成をめざして取り組んだ。特に、比較・分類・関連づけを意識した授業実践を通して、すべての子どもがわかる喜びを味わえる授業改善に取り組み、主体的・協働的な学びの充実を図ることができた。

4 自己評価結果 (A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	主体的に活動する子(「させられる自分」から「する自分」)に育っているか	A	・「させられる自分」から「する自分」にするために、児童同士が助け合い、考えられるような声かけを意識して行うとともに、主体的に活動する場面をつくり出す。 ・行事に合わせてめあてを子どもたちに話し合わせて決定するなど、効果のあった具体例を参考にして、引き続き取り組んでいく。
	・ 道徳教育	教育活動全体で道徳心を育てることができたか	A	
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	外国の人や物に興味・関心を持った児童に育てたか	A	
	・ 総合的な学習の時間	探究的な見方・考え方を働かせ、課題をよりよく解決しようとしたか	A	
	・ 特別活動	自主的・主体的に取り組む活動になったか	A	
学校運営	・ 開かれた学校づくり	保護者等に積極的に情報を公開したか	A	・ 学校たよりや学級たより、学校ウェブサイトなどを通じ、開かれた学校づくりに向けて、今後も積極的に情報発信を行う。 ・ 園・小・中の保育・授業参観、合同研修等により連携を密にする。 ・ 日々の研修や研究授業を通して、お互いに切磋琢磨しながら授業力の向上を図る。 ・ 防災や生徒指導など個別に具体的な対策を考え、共通理解を図る。
	・ 勤務時間の適正化	校務支援システム等を活用し、勤務時間の適正化を図ったか	B	
	・ 引継ぎ連携システムの強化	園小連携、小中一貫のつながりを意図した実践を行ったか	B	
	・ 生徒指導(いじめや不登校の問題を含む)	子どもの内面理解に努め、学校組織として適切な対応を図ることができたか	A	
	・ 職員研修の推進	研究主題をもとに比較・分類・関連づけの視点を取り入れた学習を計画し実践することができたか	A	
	・ 危機管理体制の整備	いざという時に適切な対処・対応ができるか体制が整っているか	A	
課題教育	・ 非認知能力の向上	やり抜く力、自制心、協働性を育む活動を意図的に設けたか	A	・ 非認知能力の向上では、話し合い活動等を意図的に仕組むことで、自分の意見を主張したり最適解・納得解を出したりする実践力に繋げていく。 ・ ふるさと学習体験活動や、講師を招いての授業等を引き続き計画実施していく。 ・ 教育活動全般をキャリア教育の視点で見直し、全教員で共有する。 ・ 特別支援教育では、関係機関との連携をより密にして、個への対応を充実させていくとともに、全教職員で児童理解を深めていく。 ・ 豊岡版の準備体操のポイントを押さえ、年間をとおり各学年の発達レベルに合わせ体幹づくりの運動を計画的に実施する。 ・ 生活習慣の大切さを理解するために、保護者の啓発とともに、保健の授業をはじめ各教科で扱う時間を設ける。 ・ 図書委員会活動の強化、家読、読み聞かせの継続、市立図書館竹野分館との連携等、読書活動の充実に努める。
	・ ふるさと教育	ふるさと竹野を自分の言葉で語れる児童に育てたか	A	
	・ コミュニケーション教育	自分とは異なる他者を意識し、他者理解を通して自己の存在を見つめ、思考させる活動を意図的に取り入れたか	A	
	・ キャリア教育	主体的に活動に取り組み、体験を通して課題を解決する児童を育てたか	B	
	・ 人権教育	児童の人権に対する意識を高めたか	A	
	・ 特別支援教育	特性を持つ児童の実態把握に努め、個への支援を充実させたか	A	
	・ 環境教育	ふるさとや生きものを大切に育てたか	A	
	・ 安全教育・防災教育	緊急時、適切に対応(自ら考え、判断、行動できる)児童を育てたか	A	
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	自分の健康を大切に育てたか	A	
	・ 読書活動	進んで読書しようとする心を育てたか	A	

5 自己評価方法(児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等)についての意見・改善点

学校教育改革推進委員会で、児童・保護者・教職員に対するアンケートの結果を分析した後、すべての教職員で、明らかになった課題をもとに改善策を協議した。年度末評価の分析では、中間評価を踏まえて取り組んだことをもとに考えることでPDCAサイクルを意識した取組になっている。

6 総合的な外部評価

学校自己評価結果の適正や改善方策の妥当性を協議した。評価委員からは「授業やふるさと学習発表会等を参観して、みんな大きな声で元気に発表していた」「アンケートで出ている課題点等をしっかり把握し、対策をしている様子がよく分かった」との評価があった。小中一貫校開設に向けて「竹野は一つ」という思いで、学校、保護者・地域が、「目指す子ども像」を共有し、保護者・地域との連携を強め、学校教育を推進してほしいとの要望があった。

自己評価の妥当性
○「教育課程」……自己総合評価“A”は妥当 ・教科指導では、めあて・学習課題を焦点化して掲示することができており、児童にとっても分かりやすかった。 ・ALTとの連携がよくとれており、英語に関心を持つ児童が増えてきている。
○「学校運営」……自己総合評価“A”は妥当 ・児童理解についての時間を定期的に設け、教職員が情報を共有しながら共通実践することができた。 ・不登校対策としてカードゲームやボードゲームを取り入れた仲間作りや長期休業明けの時程を緩やかにすることが有効であった。 ・研修では、研究授業を通して各々が比較・分類・関連づけの視点を意識し、実践することができた。
○「課題教育」……自己総合評価“A”は妥当 ・ふるさと学習では、竹野3地区の様々な事柄について関心を持ち、主体的に学習に取り組み、ふるさと学習発表会で保護者や地域の方に発信することができた。 ・高学年の情報モラル授業をはじめ、各学年人権意識を高めるために、道徳や仲間づくりの指導を行うことができた。 ・読書活動では、市立図書館から学級文庫として定期的に本を読む機会を設けたり、教科や総合的な学習の時間と連携して調べ学習に活用するなど、本に触れる機会が増えた。

- ※ 各教科、領域、行事等に「体験活動」を積極的に取り入れ、教育活動の充実に努める。
- ※ 上記の評価の観点は一統とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。
- ※ 評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。